

2005 年 9 月韓国におけるモンゴル帝国関連遺跡調査簡報

2009 年 9 月 23 日（金）

石刻の会（龍谷大学）にて

【目的】 韓国（高麗）におけるモンゴル帝国の侵攻と支配の遺跡を調査する。

【調査日程】 平成 17 年 9 月 4 日～平成 17 年 9 月 9 日

9 月 4 日（日）羽田発 金浦着 ソウル泊

9 月 5 日（月）ソウル～江華島～ソウル

江華島の高麗宮址・江華山城・甲串墩台など高麗関係遺跡の現地調査、江華歴史館の所蔵資料について調査。 ソウル泊

9 月 6 日（火）ソウル～光州～木浦

国立光州博物館にて、新安沖沈船及び高麗時代の遺物（木簡を含む）を見学・調査。

高麗・新安沈船関連書籍を購入。 全羅南道木浦市泊

9 月 7 日（水）木浦～珍島～木浦

珍島郡庁文化観光課の課長・許在観氏と面会。関連資料・論文等の提供を受ける。同課瀧口恵子氏の通訳兼ガイドにて、雲林山房内の歴史記念館における文字及び歴史資料保存の状況について調査。龍蔵山城・龍蔵寺・高麗宮女ドムボン（身投げ址）・ペ・チュンソン記念碑・南桃石城など、島内にある 13 世紀の主要遺跡を踏査。 木浦市泊

9 月 8 日（木）木浦～ソウル

国立海洋遺物展示館にて、新安沖沈船積載の遺物・資料について調査 ソウル泊

9 月 9 日（金） 金浦発 羽田着

【モンゴル帝国と高麗】

高麗：918-1392 都は開城（ソウルの北）、936 年半島統一。

cf. 杉山氏著作よりモンゴル・高麗関係年表

1218 年 キタン軍団の一部が高麗国へ乱入、蒙麗共同で撃滅

1224 モンゴル側の使節が殺害される

1231 モンゴルがサルタクを長とする軍隊を派遣、洪福源の投降、ダルガチの設置①

1232 72 人のモンゴルのダルガチを高麗が殺害、江華島へ遷都

1258 崔氏（軍人）滅ぶ

1259 太子王倂がモンゴルへ入朝→1260 彼が元宗として高麗国王に即位（～74）

高麗内の穏健派・現実派の支持を集める。強硬派武人の反発

1269 強硬派の武人林氏のクーデター、元宗の弟を即位させる

元宗の復位以後、親モンゴルの元宗政権と、対立的な政府・勢力が並び立つ

1271 モンゴルの力を借りて、元宗が国内の別勢力を抑える→親政「王政復古」

【参考文献】

『高麗史』『高麗史節要』『元史』『金史』『宋史』 その他高麗士大夫の文集など
山田安榮編『伏敵編』（吉川半七、1891 初版、1892 訂正版）……出版時期に注目
池内宏『元寇の新研究』2冊（東洋文庫、1931）……中国の視点に立った最大の専著
旗田巍『元寇－蒙古帝国の内部事情』（中公新書、1965）……古典的名著
杉山正明『モンゴル帝国の興亡』下（講談社現代新書、1996）……モンゴル帝国の立場から
井上靖『風濤』（新潮文庫、1267、1963 より執筆開始）……小説（このイメージが強い）
（青山公亮『日麗交渉史の研究』明治大学文学部研究報告第3冊、明治大学文学部文学研究所、1955）
※高麗側にたった記述とモンゴル側に立つての記述では大きな差あり。強調される点にも差あり。
※日本史としての「元寇」・「蒙古襲来」研究は枚挙に遑無いが、高麗をほとんど扱わない。

【各地での調査ポイント】

江華島 1236年から1270年の完全降伏まで（軍人による傀儡政権）王氏宗室が拠った。全土に高麗時代の遺跡が多く残る。モンゴルの侵入時、城（内城・中城・外城）はほとんどすべて破壊されたという。山城（内城）内には朝鮮時代に留守府と地方の役所が置かれ、修復・再建を重ねている。今回は、江華山城（南門・西門・高麗宮址・北門）と甲串墩台（外城の一部）、江華歴史館とまわって時間切れ。役立ちそうな文化遺跡関連の書籍を購入。

江華山城 一部古いものが残っている様だが、古くても朝鮮以降のもの。修復の詳細年代などはパンフなどからでは不明。そもそも高麗時代の城壁は土づくりであり、朝鮮時代に石積になったという。北門は高みにあるので高麗時代は門はなかったとのこと。西門は朝鮮時代初建を修築したもの。南門は高麗時代からのものらしいが、その面影はない。東門は全く残らない。西・北門から連なる土盛りのみが往事を忍ばせるか？

高麗宮址 朝鮮時代に留守府と地方官庁が置かれた。19Cフランス軍により焼失。吏房庁と東軒、さらに近年、中央の建物が復元されている。

甲串墩台 何とも新しい。現地の説明では、フランス軍との戦いが強調される。

北朝鮮対策の鉄条網の内側に、外城（といわれるもの）が見える。

江華歴史館 4室。郷土史の勉強場所。朝鮮版3冊が無造作に開いておかれている。

珍島 江華島から逃れてきた三別抄が拠った島。海南郡から船で渡る東北側の港を囲む形で、高麗時代に龍蔵山城が築かれており、三別抄はまずそこに拠った。1271年からのモンゴルの攻撃を受け、南下を続け、最後に最南端の南桃石城に拠ったが、翌年済州島へ移動。三別抄はそこで1273年に壊滅。三別抄を率いたペ・チュンソン（裴仲孫）らの記念碑なども残る。江華島に比して、関連遺跡はずっと少ない。今回、ブログも持っている珍島郡庁勤務の瀧口恵子さんを運転手・ガイドにお願いでき、一日で関連の遺跡を網羅することができた。役所にある資料も多数提供していただいた。ハングルを読めるようになりたい。全体の感想として、三別抄が英雄的に語られ、多くの遺跡がむやみに直接的に関連づけられているようだ。報告書・『郡誌』の利用が必要。

龍蔵山城 内部は九段、台型の地形は王の居所とか塔があったとか諸説。石垣は、山の尾根を結んで海へ落ち込む 12.75 キロ。木浦大学が発掘。その時整理された柱の礎石 3 つ、そのた多くの土器片が、上から 5 段目に集められる。実際、格子紋の入った土器片が多数。現地の看板に拠れば、三別抄が作ったとあるが、それ以前から高麗の地方組織が置かれていた模様。木浦大学出版の報告書を役所より贈呈。

龍蔵寺 高麗時代山城の中心であったが、現在は東側麓にある小庵（別物）。薬師殿には今世紀に出土した高麗時代の石仏 3 体があり（薬師如来ではない）、地元では三別抄と関連づけて理解されている。修復激しく文化財指定を逃したという。

南桃石城 もと裴仲孫率いる三別抄が築いたとされる。現在周囲 610m。実際には 15 世紀朝鮮時代に現在のかたちとなったものか。二重の堀があったようで、南側は残っている。朝鮮時代に水軍陣があった。眼鏡橋もあり、朝鮮時代のものか。民俗村を建設すべく李朝の建物や南門の上の建物を復元中。予算不足で休止とのこと。その他、復元を名にした建築が目立つ。

伝王温墓 王温は元宗のまたいところ。大きな墳丘の前に小さな墳丘が縦一列に三つ連なる。陪臣墓か？不明。更に下ったところに馬の陪塚と伝えられる墳丘がある。割と大きい。附近で交通事故多発のため、近年墓の整備が進められたとのこと。

高麗宮女ドムボン 身投げ址。地形から海に連なる大きな川だったことがわかる。

裴仲孫記念像 もと地元の名士と 2 人を祀る祠のみ。子孫の寄付により記念像が建つ。

歴史記念館 雲林山房敷地内にある。郷土の学習歴史館。地理的に独自文化が残り、朝鮮時代の文化人も多いらしい。朝鮮版が多く展示される。

光州 国立光州博物館は、各道にある国立博物館の中でも、全羅南道の特長を生かし、陶磁器を中心に所蔵・展示する。新安沈船からの陶器約 2 万点のほとんどを所蔵（一部が海洋遺物展示館と国立中央博物館に分けられている）。

木浦 海洋遺物展示館は、新安沈船の保存研究のために作られたといえる。実物を復元展示する。保存処理が十分か、若干不安。沈船の調査報告書や展示館の歴史の書籍が陳列されていたが、非売品とのこと。図録のみ購入。

ソウル 国立中央博物館は長い移転休館を経て、今年 10 月 28 日に再開業予定。韓国全土の歴史をまんべんなく押さえることができる展示になるだろう。

【全体的な感想】

- ・遺跡をまわるなら、ぜひガイドが必要。
- ・博物館で写真が不可能なところが多い。
- ・歴史遺跡の保存に対する考え方の違い？

【その他 Special thanks to 】

イ・ケソク（李介奭）先生 モンゴル関係の遺跡についてご教示いただいた。今回訪問した地方以外で、海南郡・済州島・馬山にも遺跡が残るということだった。

ソン・ジェウン（宋在雄）氏 木浦のホテルの手配をお願いした。

ナ・ジョンミ（羅貞美）氏 国立光州博物館でガイドをしてくださった。